

山梨県韋崎市
二反田遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1994

韋崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

山梨県韋崎市

二反田遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1994

韋崎市教育委員会

峡北土地改良事務所

序 文

革崎市では、近年県営圃場整備事業等の大規模開発にともない、数多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されています。この度発刊された本報告書は、そのような貴重な発見が相次ぐ大規模開発の一端として平成5年度県営圃場整備事業に伴い発掘調査された二反田遺跡の報告であります。

二反田遺跡からは弥生時代の遺物や平安時代の住居・水田が発見されました。遺跡から出土した遺物は当時の生活用品である上器が主体となっており、貴重な資料を得ることができました。これらの資料は文化遺産として、永く後世に伝えて行かなければならぬものです。報告書はそれらの文化財を記録にとどめたものであり、本書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

末筆ですが、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多人なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成6年3月31日

革崎市教育委員会

教育長 秋山利良

例　　言

- 1 本書は、県営圃場整備事業に伴う二反田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、岐北土地改良事務所負担金、文化庁・山梨県の補助金を受け、韮崎市教育委員会が実施した。
- 3 本報告書の作成並びに整理作業は、韮崎市教育委員会社会教育課が行った。
- 4 凡例
 - ① 遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。② 縮尺は各挿図ごとに示した。挿図中のドットは焼土を表す。③ 遺構断面図の水系標高（m）は数字で示した。④ 挿図断面図のは石をあらわす。⑤ 歴史時代上器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器をあらわす。⑥ 写真団版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。
 - 5 発掘調査及び報告書作成に当たり、多くの方々から御指導・御協力をいただいた。一々御芳名を上げることは割愛させていただくが、厚く御礼を申し上げる次第である。
 - 6 発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調査組織

- 1 調査主体 韮崎市教育委員会
- 2 調査担当 山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）
- 3 調査参加者
越石政幸・中沢長作・細田明雄・越石孝子・真壁ふみか・山形郁子・内藤勝子・細田すみ江・内藤道子・細田圭子・内藤治子・中嶋香代子・内藤ゑなみ・内藤隆子・深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・有賀京子・三井福江・清水由美子・青山みち枝
- 4 事務局 韮崎市教育委員会社会教育課
教育長 秋山利良・課長 堀田国夫・課長補佐 長野栄太
係長 中嶋尚夫・野口文香・梅川昭代

目 次

序 文
例 言
目 次
挿 図 目 次
写 真 図 版 目 次

I 調査に至る経緯と概要	1
II 遺跡の立地と環境	1
1 遺跡の立地	
2 周辺の遺跡	
III 遺跡の地相概観	2
IV 調査の方法	2
V 遺構	6
VI 遺物	17
VII まとめ	21
おわりに	
写真図版	

挿図目次

第1図	二反田遺跡①と周辺の遺跡	3
第2図	二反田遺跡位置図	4
第3図	二反田遺跡全体図	5
第4図	1号住居址平・断面図	6
第5図	2号住居址平・断面図	7
第6図	1号・2号水田址平・断面図	8
第7図	3号・4号・5号・7号水田址平・断面図	9
第8図	9号・10号・11号水田址平・断面図	10
第9図	牛の足跡の残る水田状遺構平・断面図	11
第10図	穴群平・断面図	12
第11図	溝群平・断面図	13
第12図	6号・8号水田址、1号・2号溝址平・断面図	14・15
第13図	1号溝平・断面図	16
第14図	上器片集積場平・断面図	17
第15図	1号住居址出土遺物	18
第16図	2号住居址出土遺物	18
第17図	2号住居址出土遺物	19
第18図	遺構外出土遺物	19
第19図	土器片・集積場上器	21

写 真 図 版 目 次

- 図版 1 遺跡遠景, 1号住居址, 1号住居址カマド
- 図版 2 発掘風景, 2号住居址, 2号住居址カマド
- 図版 3 2号水田址, 3号・4号水田址, 発掘風景
- 図版 4 1号水田址, 5号水田址, 1号溝・6号水田址, 7号水田址
- 図版 5 9号水田址, 10号水田址, 11号水田址
- 図版 6 牛の足跡の残る水田状遺構, 溝群, 土器片集積場
- 図版 7 穴群, 1号溝, 2号溝, 遺跡水田址
- 図版 8 遺跡近景, 2号住居址出土遺物, 土器片集積場土器

I 調査に至る経緯と概要

平成5年度県営圃場整備事業実施にともない、本市教育委員会では荏崎山圃場整備室から依頼を受け、事業予定地区を平成4年度に踏査及び試掘を行い、遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、秩父土地改良事務所・山梨県教育文化課・市教育委員会で協議を行い、二反田遺跡について、圃場整備事業に先立って面積約1,600m²を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、平成5年6月初旬より開始し約2カ月間おこなった。引き続き、遺物等の整理作業を行ない、報告書作成までの作業が完了したのは、平成6年3月であった。

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の立地

二反田遺跡は、山梨県荏崎山円野町下円井字二反田地内に所在した。

荏崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的には山地・台地・平地の三地域に分けられる。

荏崎市の西部は、南アルプスの連峰が連なり、その前衛に階段状に山々が屹立している。これらの山々からは大小の溪流が流れだしそれぞれ扇状地をつくりだしている。扇状地の末端は南東流する釜無川によって侵食され急崖となり河岸段丘を形成している。段丘上は山麓の台地と緩傾斜の平坦面に分かれ、台地上は駿信往還が通る交通の要路となっており、中世には辺境武士団武川衆の拠点でもあった。二反田遺跡はこのような釜無川右岸河岸段丘の標高約448mの水田・畑下に発見された。

2 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代区分	備考
①	二反田遺跡	弥生・奈良・平安	
②	北堂地遺跡	縄文・平安・中世・近世	平成2年度 莳崎市教育委員会調査
③	堂地遺跡	縄文・平安・明治	
④	中本田遺跡	縄文	昭和61年度 莳崎市教育委員会調査
⑤	中道遺跡	縄文・平安	昭和60年度 莳崎市教育委員会調査
⑥	下木戸遺跡	平安	
⑦	伊藤第2遺跡	縄文・古墳・中世	平成2年度 莳崎市教育委員会調査

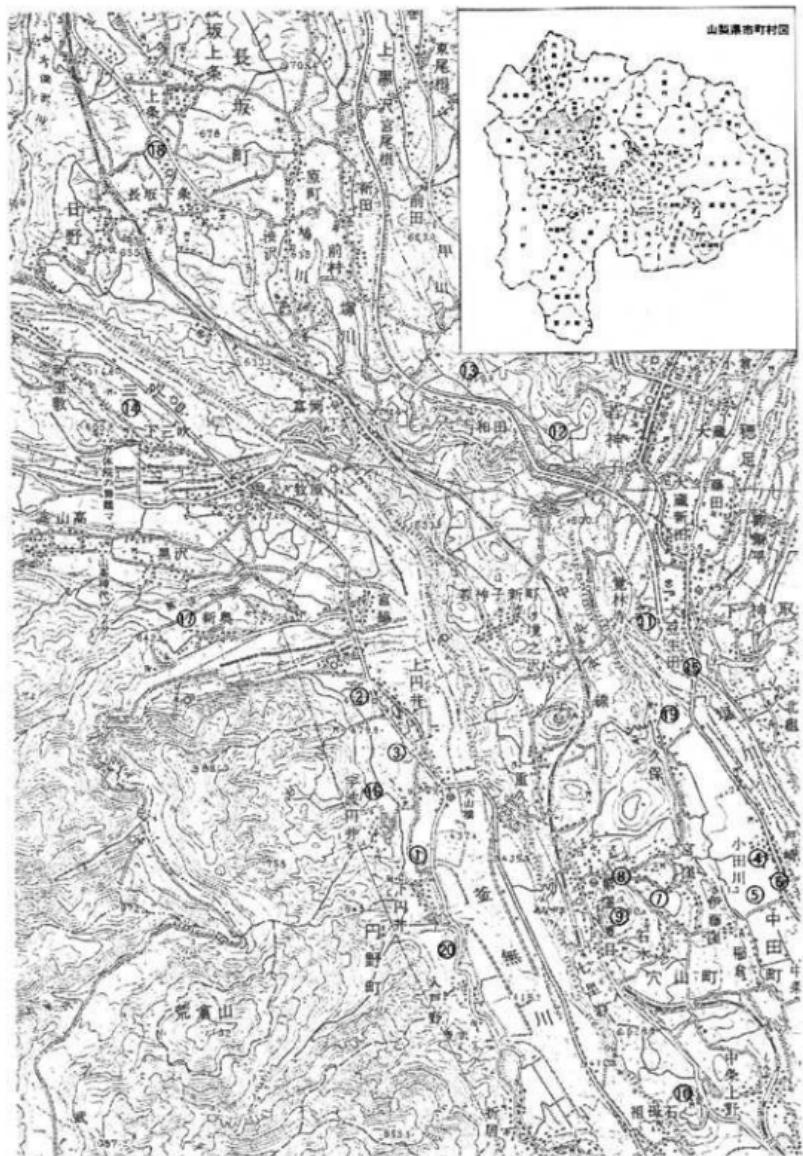
番号	遺跡名	時代区分	備考
⑧	宿尻遺跡	縄文	平成3年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑨	能見城	中世城郭	
⑩	新府城跡	中世城郭	国指定史跡
⑪	大豆生田遺跡	縄文・弥生・平安	昭和49年度 山梨県教育委員会調査
⑫	大小久保遺跡	平安	昭和57年度 須玉町教育委員会調査
⑬	湯沢遺跡	平安	昭和58年度 高根町教育委員会調査
⑭	宮間田遺跡	平安	昭和60・61年度 武川村教育委員会調査
⑮	大豆生田遺跡	中世	
⑯	宇波円井遺跡	縄文	
⑰	向原遺跡	縄文・弥生・平安	昭和59年度 武川村教育委員会調査
⑱	長坂上条遺跡	縄文	大山柏・他 「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13-3 1941年
⑲	上本田遺跡	縄文・奈良・平安	平成3年度 喜崎市教育委員会調査
⑳	半郷田遺跡	奈良・平安	

III 遺跡の地相概観

二反田遺跡は、下円井集落の北側段丘上に位置する。西から東に向かって傾斜をもった半円形に張り出した台地で、西側は徳島堰が南流し畑が形成されている。周囲は水田が広がり、比較的眺望のよい場所である。調査区域南端の土層を観察すると、水田底土下には暗褐色系土～黒褐色土層が形成され、それを取り除くと砂質土となる。暗褐色系土～黒褐色土層中には砂層が入りこんでおり何回か氾濫が予想される。遺構は暗褐色土中に掘りこまれていた。

IV 調査の方法

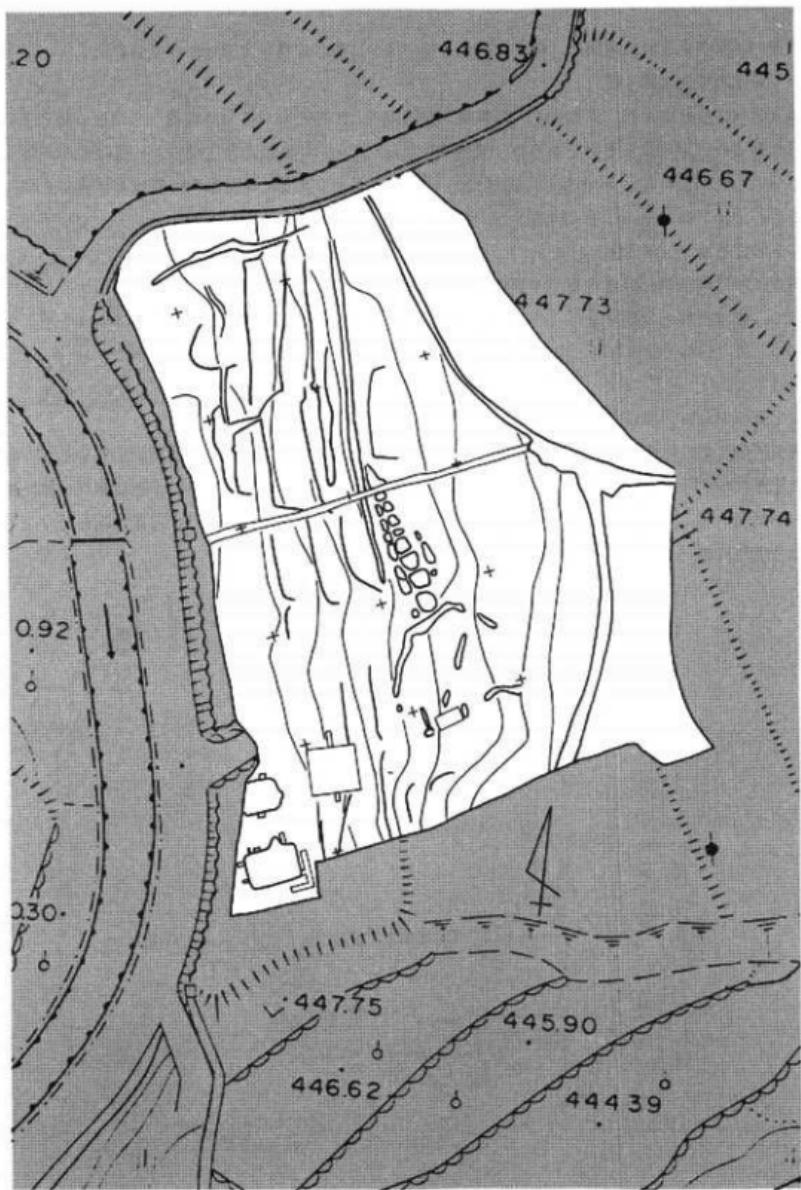
地形を考慮し任意に10m方眼を設定し調査を行った。耕作土・表土を排除した後、鋤窓等により精査を行い、遺構確認の後、掘り下げを行った。遺物は出るが遺構の確認困難な箇所はグリットの掘り下げを行い調査を実施した。



第1図 二反田遺跡①と周辺の遺跡 (1 : 50000)



第2図 二反田遺跡位置図 (1 : 2500)



第3図 二反田遺跡全体図 (1 : 500)

V 造 構

調査の結果発見された遺構は、堅穴住居址 2軒のほかに溝状遺構・水田址が発見された。

<1号住居址> (第4図)

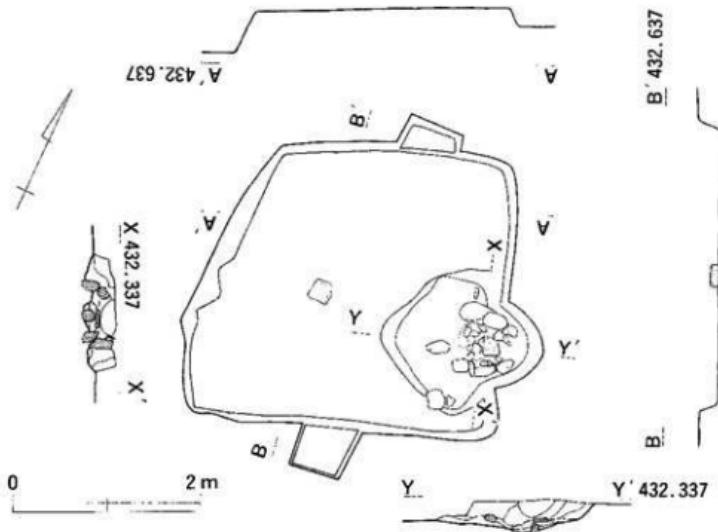
調査区域のはば南西端に位置する。西側は調査区域外と水路となっており完掘できなかった。平面形態は長方形を呈するのであろう。東西約3.5m、南北約3mの大きさをもつ。壁はやや外傾しながら立ち上がり、20~25cm前後の高さである。底面はほぼ平坦。柱穴等の内部施設は確認されなかった。カマドは東側に石組で構築され、東西1.7m、南北1.5mの大きさをもつ。

<2号住居址> (第5図)

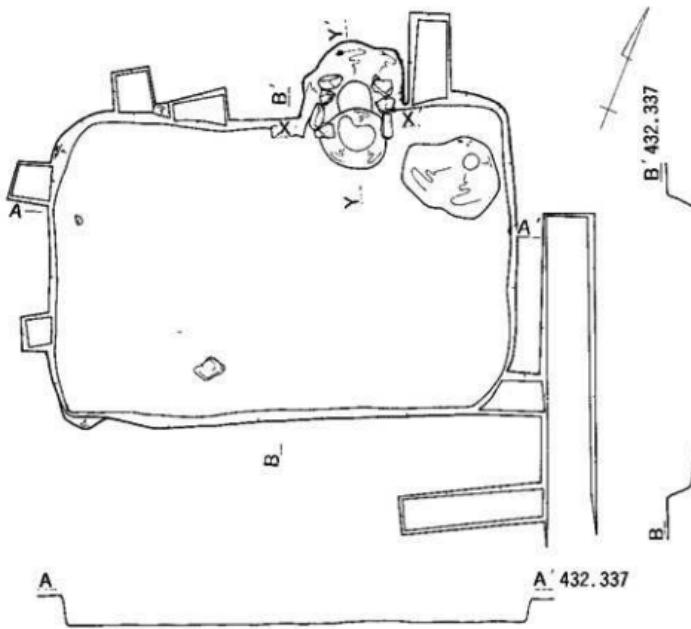
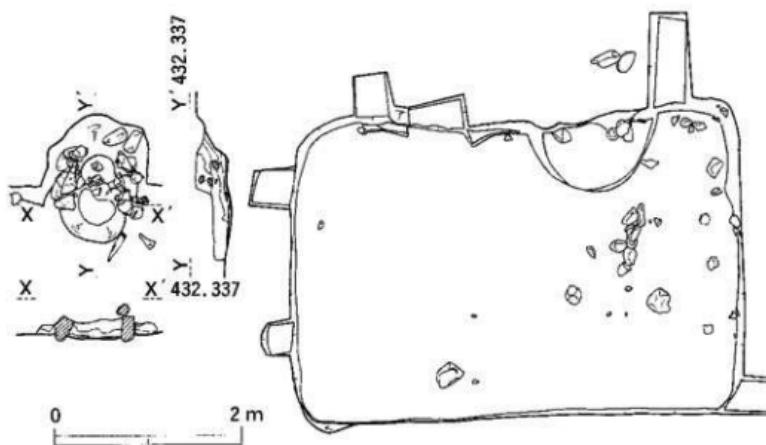
調査区域は南西端に位置する。平面形は隅内長方形を呈する。東西約5m、南北約3.5mの大きさをもつ。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは30cm前後である。床面はほぼ平坦。カマドは北側に石組で構築され、南北1.2m、南北1.5mの大きさをもつ。カマドの東側に凹みがあるが、性格は不詳。

<1号水田址> (第6図)

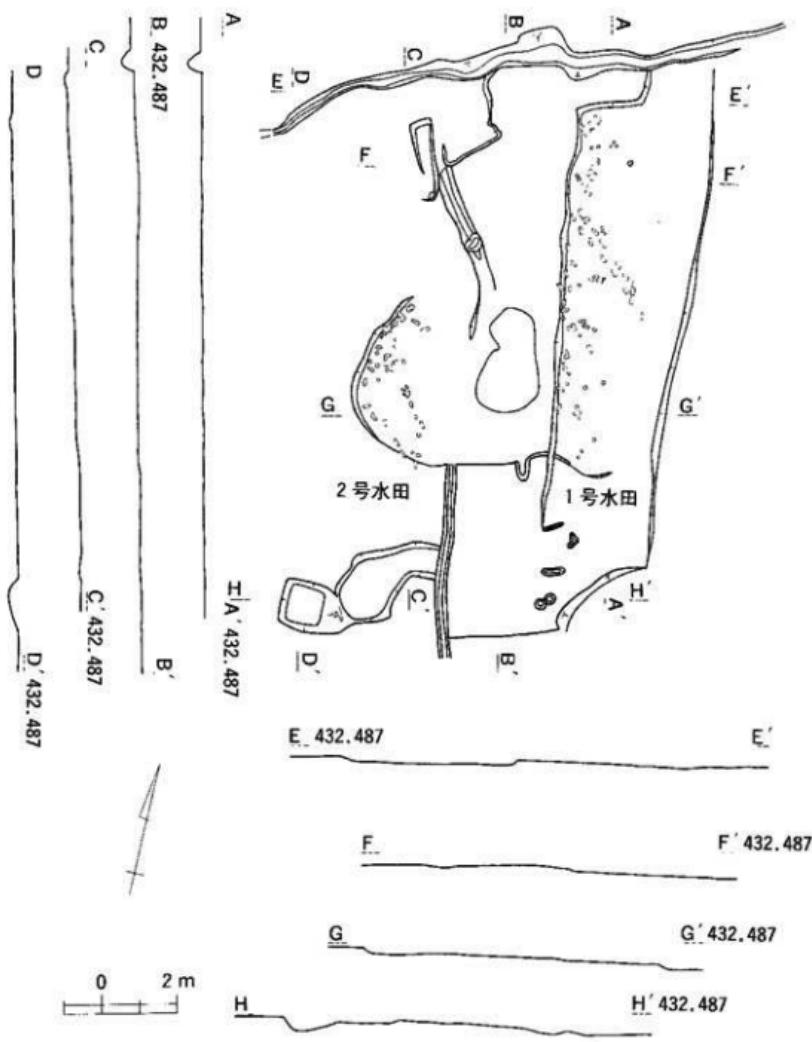
調査区域北側に位置する。平面形は長方形を呈する。東西約3m、南北約11m程の広さをもつ。畔は確認されなかつたが、西辺に砂が埋没しており砂を取り除いた段階で人の足跡が確認され、また遺跡内の傾斜地形に沿って同様な遺構が段々に確認できたので水田跡と判断した。本来は畔がめぐっていたと思われる。



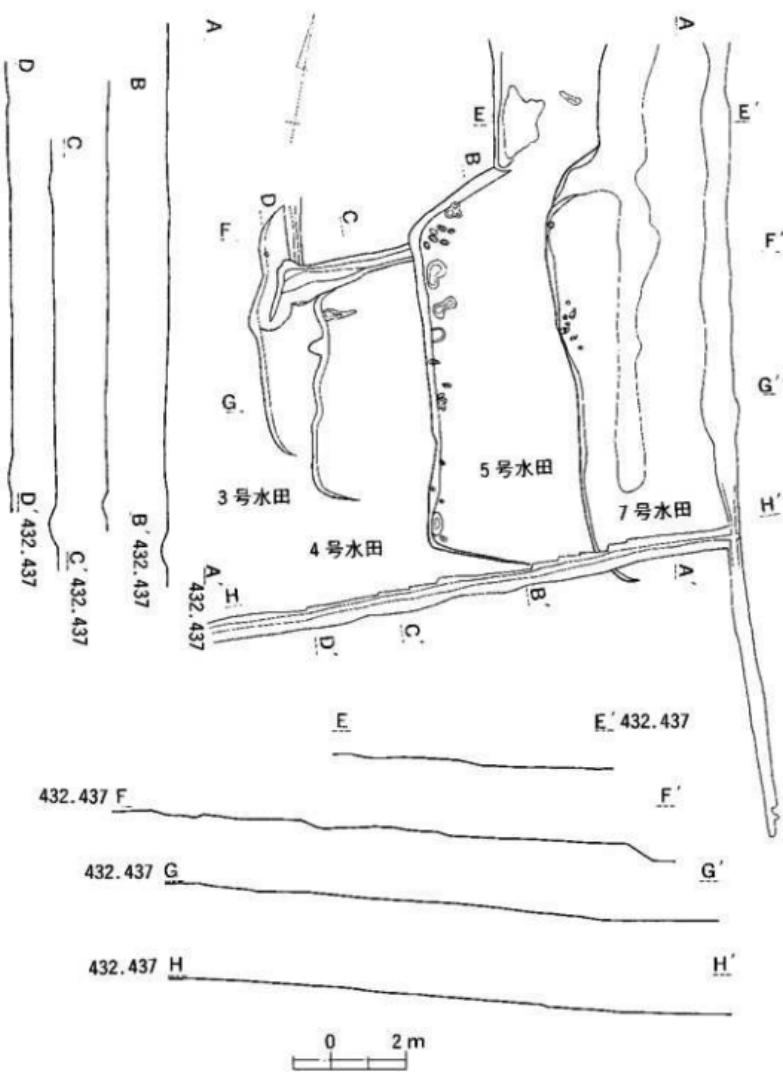
第4図 1号住居址平・断面図 (1 : 60)



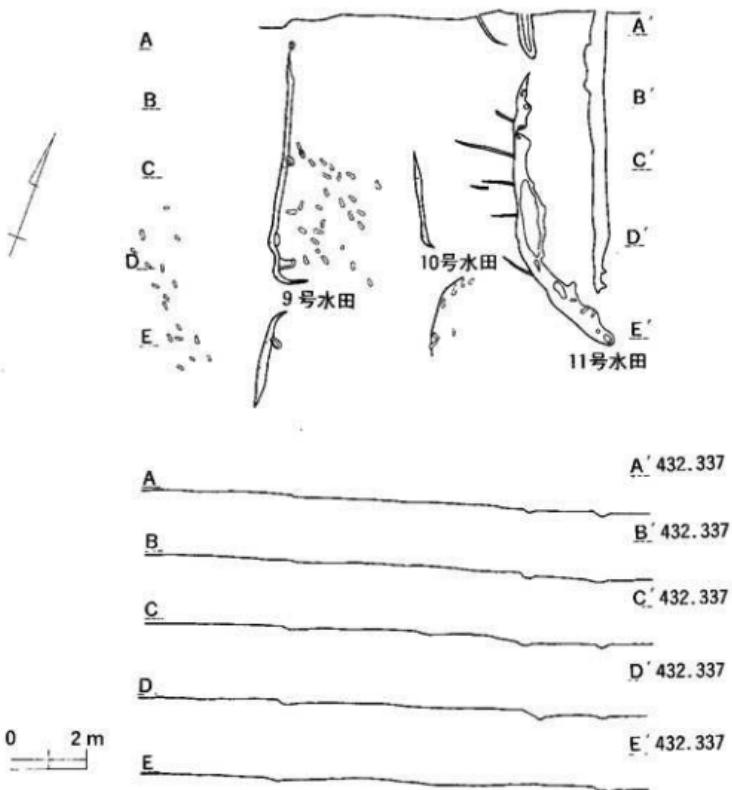
第5図 2号住居址平・断面図 (1 : 60)



第6図 1・2号水田址平・断面図 (1:150)



第7図 3・4・5・7号水田址平・断面図 (1 : 150)



第8図 9・10・11号水田址平・断面図 (1 : 150)

<2号水田址> (第6図)

1号水田址の西、調査区域の北西側に位置する。3m四方程しか遺存していない。人の足跡がみられる。北から溝が入り込んでいるが、水口であろうか。

<3号水田址> (第7図)

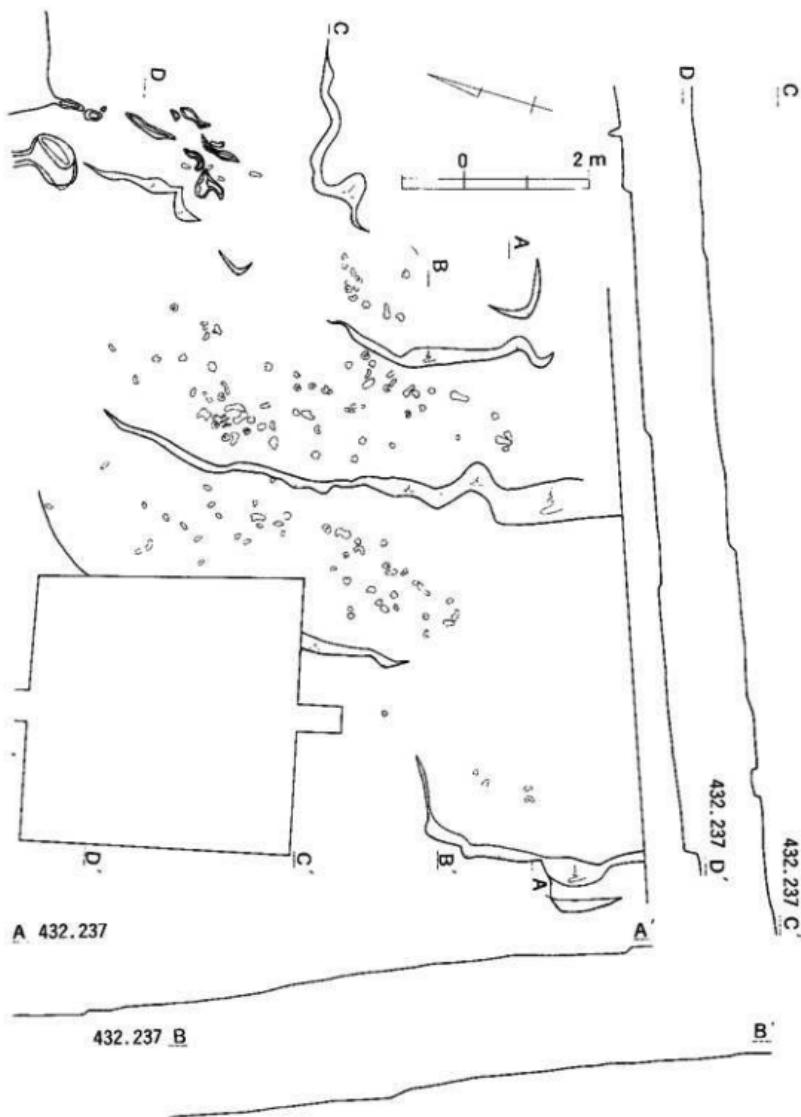
調査区域中央西側に位置する。1m×3m程の小区画で、北側に溝がある。

<4号水田址> (第7図)

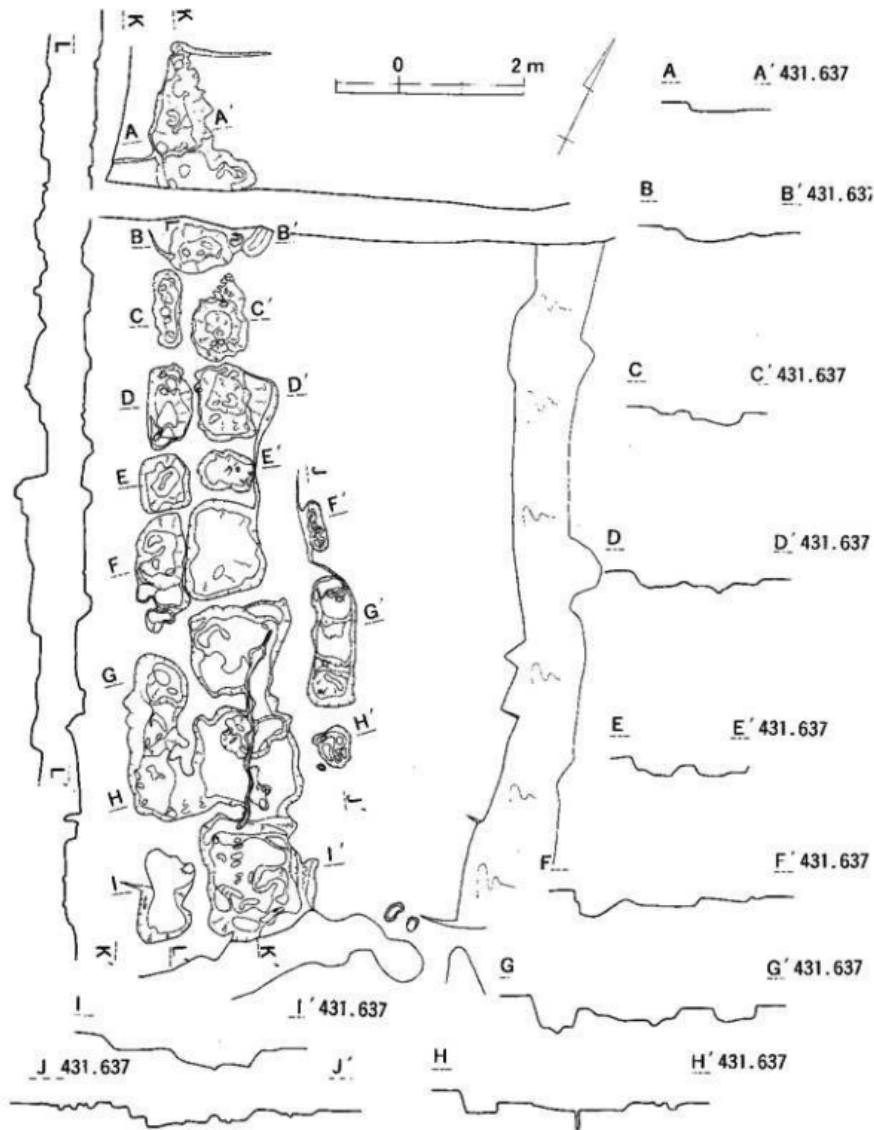
調査区域中央西側、3号水田址の東に位置する。3m×6m程の広さの区画である。北辺には溝がある。

<5号水田址> (第7図)

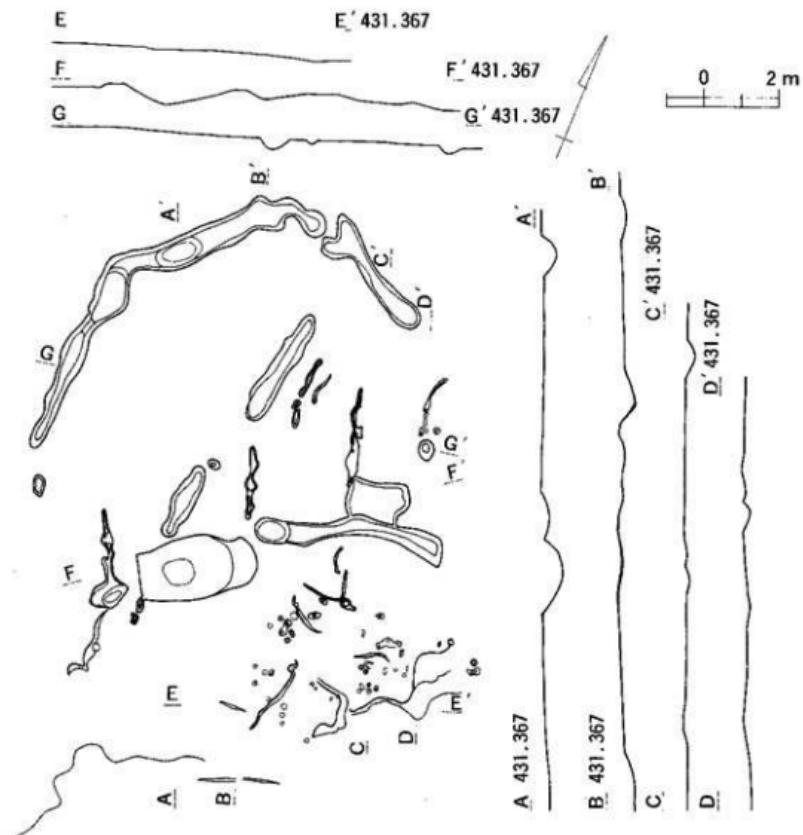
調査区域中央西側、4号水田址の東に位置する。4m×9m程の広さの区画である。西側から溝が入り込んでおり、水口と思われる。



第9図 牛の足跡の残る水田状遺構平・断面図 (1 : 90)



第10図 穴群平・断面図 (1 : 90)



第11図 溝群平・断面図 (1 : 150)

< 6号水田址 > (第12図)

調査区域北側中央、1号水田址の東に位置する。17m × 4m程の広さをもつ。

< 7号水田址 > (第7図)

調査区域中央に位置する。南北約11mの長さがあり、幅は3～4m程であろうか。

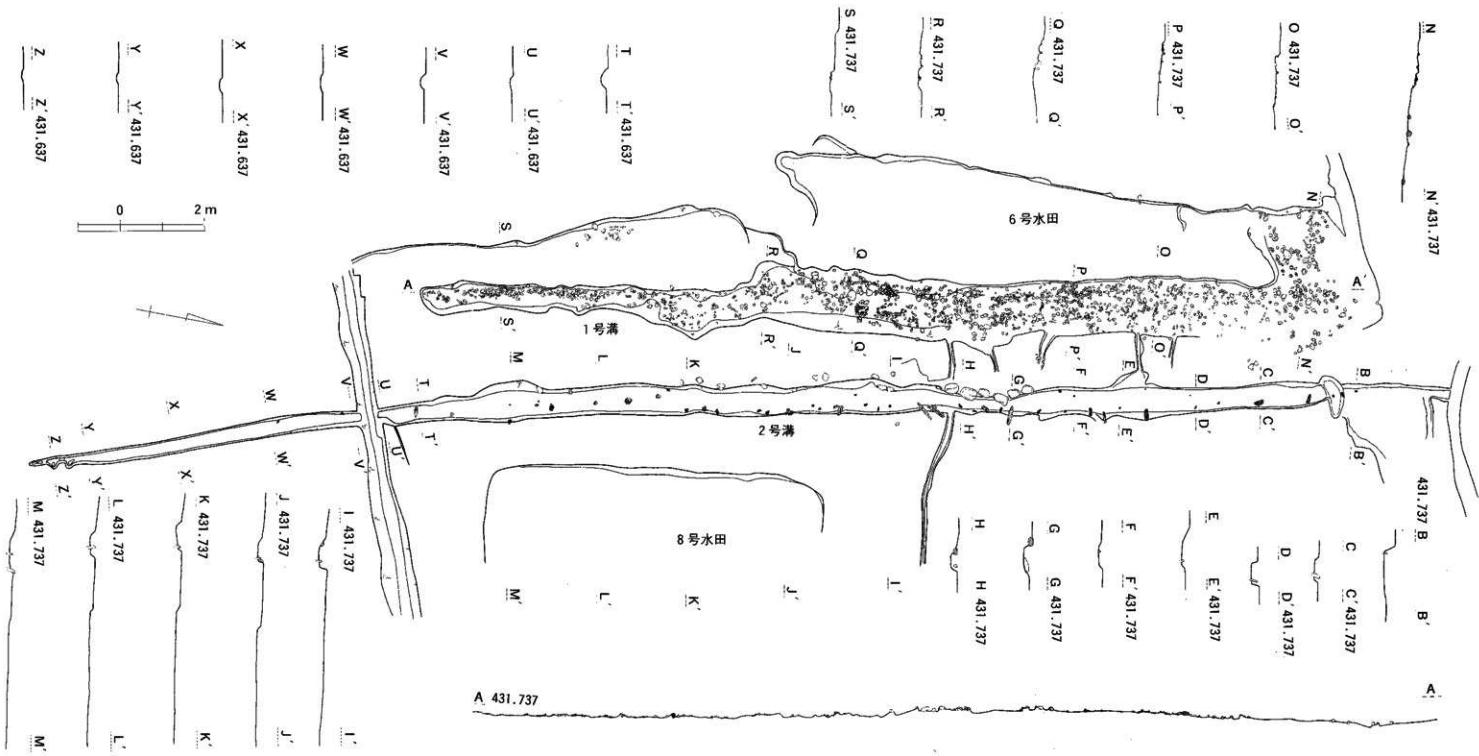
中央と東側は溝によって切られている。

< 8号水田址 > (第12図)

調査区域中央東側に位置する。長さ13m程の遺構である。

< 9号水田址 > (第8図)

調査区域中央南側に位置する。長さ7m、幅3m程の広さをもつ。人間の足跡が確認された。



第12図 6号・8号水田址、1号・2号溝平・断面図 (1:90)

<10号水田址> (第8図)

調査区域中央南側に位置する。長さ5m、幅2m程の広さであろうか。9号・10号水田址の南には畦道らしき空間があり、また水田が続く。

<11号水田址> (第8図)

調査区域中央南東側に位置する。長さ7m程の規模をもつが、溝が切っている。

<牛の足跡の残る水田状遺構> (第9図)

調査区域南側に位置する。2m程の幅をもつた水田状の遺構で、西から東にかけて四段ある。先が二段に分かれた特徴的な足跡が多量に見られた。牛の足跡であろう。

<穴群> (第10図)

調査区域東側に位置する。長さ1.5m、幅4m程の区域に約18の穴がある。北側から南側へ流れをもつようにもみえるが、遺構の性格は不明。

<溝群> (第11図)

調査区域南東側、穴群の南に位置する。砂の埋没しているところを掘り下げたところ、岡のようになつた。溝の性格は不詳。

<1号溝> (第12・13図)

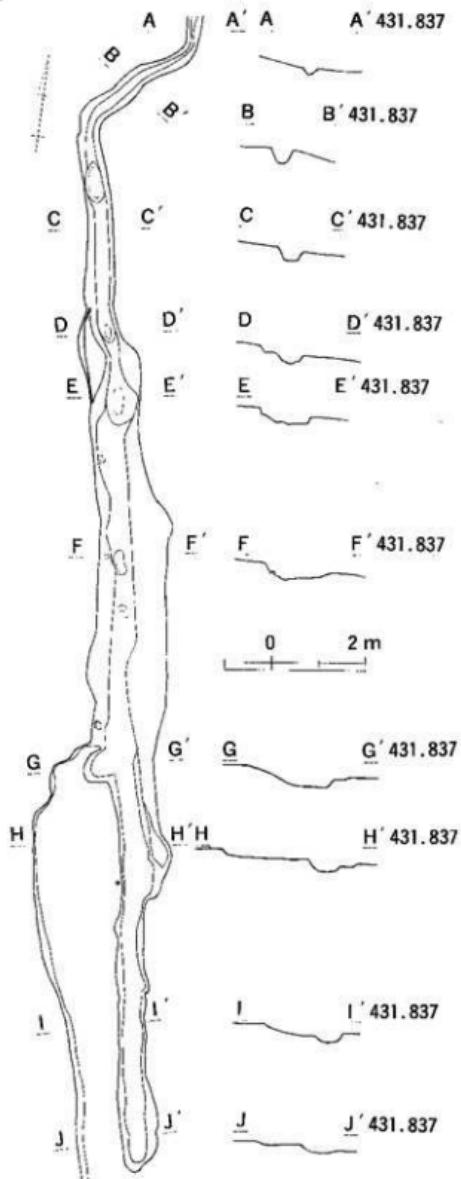
調査区域北半部東側に位置する。長さ22mで、幅は70cm~1.5m、南から北へ流れをもつ。石が多量に入り込んでいた。

<2号溝> (第12図)

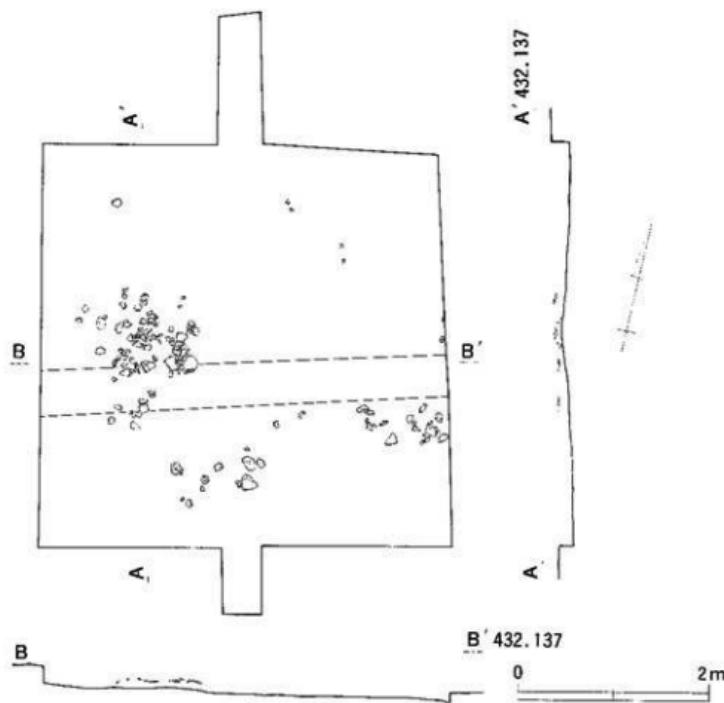
調査区域北半部東側、1号溝の東に位置する。長さ40m、幅70cmの溝で南から北へ流れをもつ。溝東側には木の杭が並んでいた。圃場整備前の水田の区画に沿つてるので比較的新しい時代の水路と思われる。

<土器片集積場> (第14図)

調査区域南側に位置する。土器片が出土したので遺構の確認作業を行つたが、発見されなかつたので上器片集積場とした。



第13図 1号溝平・断面図 (1 : 120)



第14図 土器片集積場平・断面図 (1 : 60)

VI 遺 物

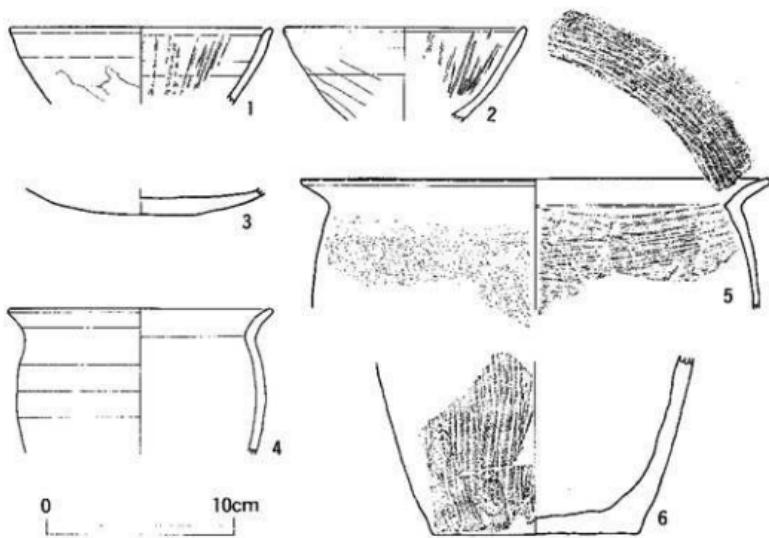
本遺跡から出土した遺物は、1号・2号住居址に伴うものが主体で、水田址からは、遺構の時代を特定出来る遺物はほとんど出土しなかった。

<1号住居址出土遺物> (第15図)

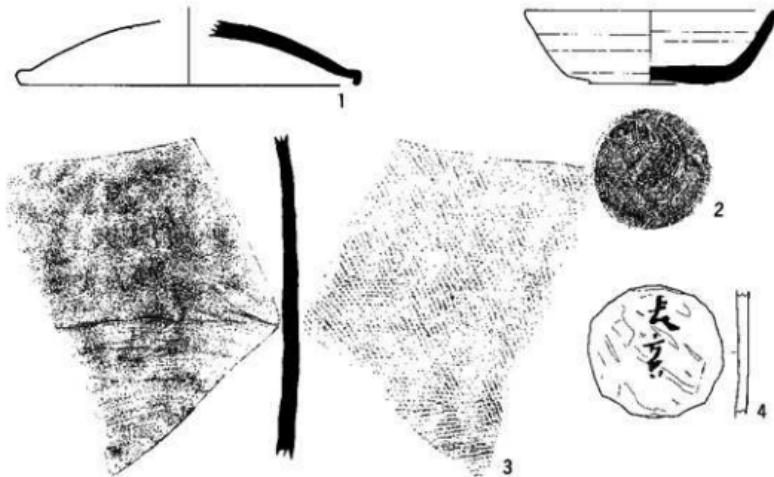
出土遺物一覧

(単位 cm)

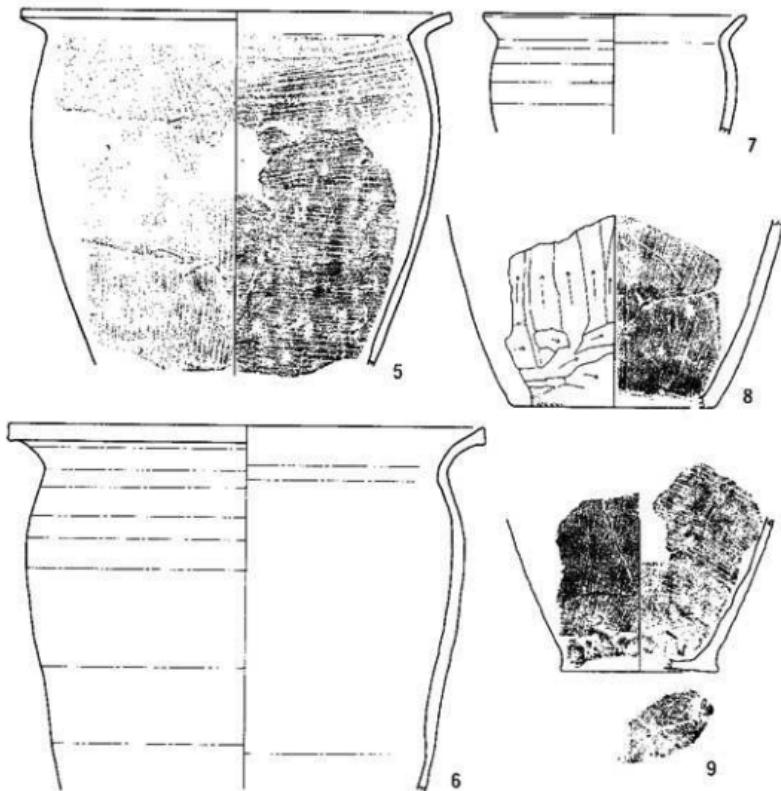
番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高	口径・底径			
1	土師器	壺	—	13.7,—	細かい石英 赤、白色砂粒を 含む	橙色 にぶい橙色	内面—暗文 外面—ヘラ削り 1/6残
2	土師器	壺	—	13.0,—	砂粒を含む	橙色 にぶい橙色	内面—暗文 (磨滅により不鮮明) 外面—ヘラ削り 破片



第15圖 1号住居址出土遺物 (1／3)



第16圖 2号住居址出土遺物 (1／3)



第17図 2号住居址出土遺物 (1/3)



第18図 遺構外出土遺物 (1/3)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
3	土師器	皿	—, —, 3.0	赤色粒子を含む	にぶい橙色	ロクロによる整形 体部下～底部にかけて回転ヘラ削り 口縁部欠損	
4	土師器	小型甕	—, 14.1, —	粗い砂粒を含む	褐色	内面一磨滅により不鮮明 外面一横撫で整形	破片
5	土師器	甕	—, 24.8, —	粗い金雲母を多 量に含む	暗赤褐色 黒褐色	内面一横刷毛目 外面一縱刷毛目	口縁部欠損
6	土師器	甕	—, —, 11.0	白色粒子を含む	にぶい赤褐色 にぶい橙色	外面一縱刷毛目 底部～ヘラ削り 副下部～底部破片	

<2号住居址出土遺物> (第16・17図)

出土遺物一覧

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須恵器	蓋	3.5, 9.2, —	白色粒子を含む	灰色	外面上回転ヘラ削り 報部欠損	
2	須恵器	坏	3.9, 13.2, 6.4	白色・赤色粒子 金雲母を含む	灰褐色	底部回転糸きり痕 3/4残	
3	須恵器	甕	—, —, —	白色・黒色粒子 金雲母を含む	灰白色 褐灰色	外面側部叩き目 内面同心円あて具痕 破片	
4	土師器	坏	—, —, —	赤色粒子を含む	橙色	側面 底部墨書「長方呂」 底部破片	
5	土師器	甕	—, 22.8, —	粗い砂粒、金雲 母を含む	にぶい赤褐色	内面一横刷毛目 外面一縱刷毛目 口縁部～胴部破片	
6	土師器	甕	—, 25.4, —	粗い砂粒を含む	にぶい橙色 一部焦変	内面一磨滅により不鮮明 外面一横撫で 口縁部～胴部破片	
7	土師器	小型甕	—, 13.8, —	粗い砂粒を含む	にぶい橙色	内外面一横撫で 口縁部～胴部破片	
8	土師器	甕	—, —, 10.6	粗い砂粒を含む	にぶい橙色 橙色	内面一横刷毛目 外面一縱刷毛目 底部～外周部に見らる 底面～外周部に見らる 底面～外周部に見らる 底面～木製底 下脚部破片	
9	土師器	甕	—, —, 8.4	粗い砂粒、金雲 母を含む	暗赤褐色	内面一横刷毛目 外面一縱刷毛目 底面～木製底 下脚部破片	

<遺構外出土遺物> (第18図)

出土遺物一覧

(単位 cm)

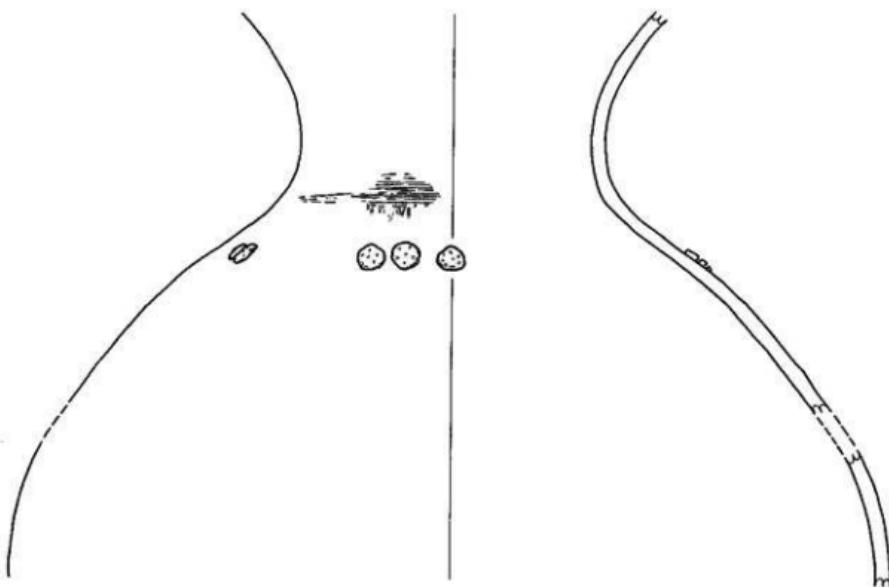
番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	土師器	皿	—, —, 5.8	砂粒を含む	淡赤橙色 橙色	内面一磨滅 外面一全体下半～底部回転ヘラ削り 破片	

<土器片集積場土器> (第19図)

出土遺物一覧

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	弥生	甕	—, —, —	砂粒を多く含む	にぶい橙色 橙色	外側に数本の螺旋状 の溝があり 口部は剥離されたボタン状 駆け立つが3個1組で4所 施されるものと思われる。 内面一輪廻形が見られる。 底部～側面部にかけての駆片	



第19図 土器片集積場土器 (1/4)

VII まとめ

今回の調査では、前章まで見て来たように平安時代の住居址と水田跡が検出された。

平安時代の住居は堅穴でカマドをもつ一般的な構造であるが、北側にカマドをもつ2号住居址は1号住居址よりやや古く8世紀後半の遺構と思われる。2号住居址からは「長万呂」という墨書き十鑄があり土をしており、人名と考えられるが、遺構とのかかわりや当該地域との関連は不明である。水田址は11面程確認されたが、時期などの特定は、土師器の破片が僅かに見られたのみで外にはほとんど無いので明確なところはわからない。人の足跡や牛の足跡は、かつての農耕の様子を想像するが出来おもしろい発見であろう。

おわりに

二反田遺跡から発見された遺構と遺物は各時期の歴史を解明するうえで重要なものであるが、本報告書は限られた作業のなかでなされたもので、遺構と比較的の遺存状態の良い遺物を抽出し呈示したにすぎない。遺構・遺物の詳細な検討等がなされず不十分な点は否めないが、本書が今後の調査・研究に資することができれば望外の喜びである。

なお、本遺跡の発掘調査は夏季に行われ、地元の皆様の御理解と御協力により円滑に終了することができた。まれにみる冷夏の季節にもかかわらず調査に参加していた方々に厚くお礼を申し上げる次第である。

写 真 図 版



遺跡遠景



1号住居址



1号住居址カマド



発掘風景



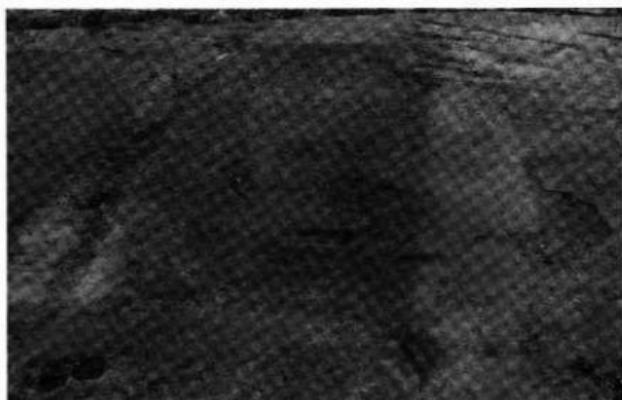
2号住居址



2号住居址カマド



2号水田址



3号・4号水田址



発掘風景



1号水田址



5号水田址



1号溝·6号水田址



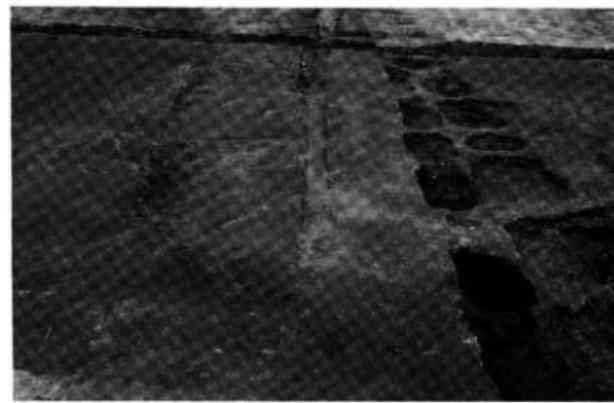
7号水田址



9号水田址



10号水田址



11号水田址



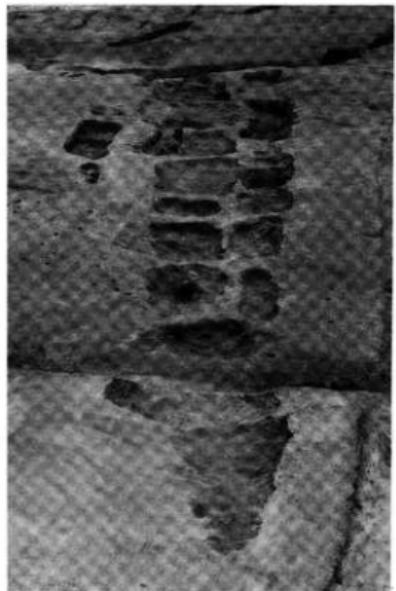
牛の足跡の残る水田状遺構



溝 群



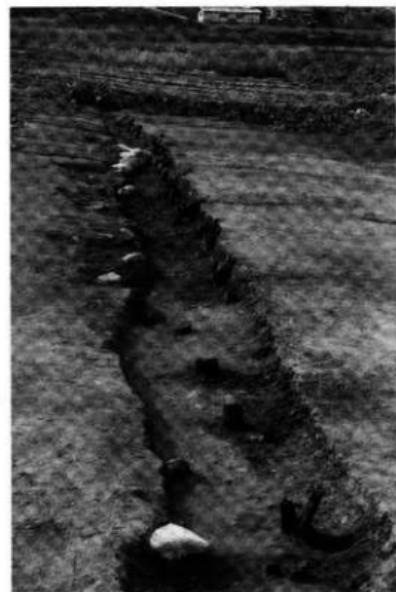
土器片集積場



穴 群



1 号 溝



2 号 溝



遺跡水田址



2号住居址出土遺物



土器片集積場土器

二 反 田 遺 跡

発行日 平成 6年 3月31日

発 行 萩崎市教育委員会
〒407 山梨県萩崎市水神一丁目3番1号
TEL 0551-22-1111(代)

印 刷 タクト/印刷・デザイン

